

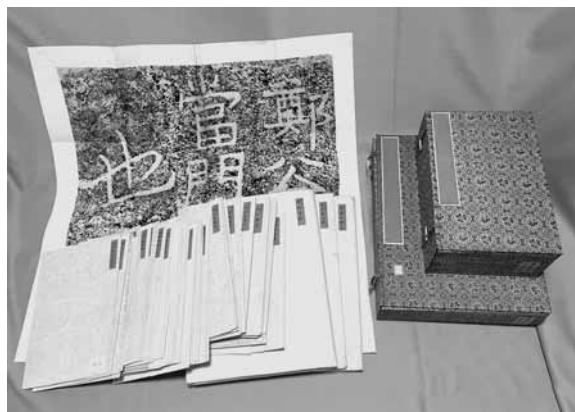
「落ち穂拾い記」(43)

『雲峰山全套』②

「論經書詩」

中国との国交回復前後の時代は、中国旅行の門戸も少し開き、書道界の皆さんも出かけられ、各地の博物館や書道史跡見学や、当地の人々との交流などが、書道雑誌に写真とともに掲載されるのを目にすることになった。諸先生方や友人が出かけ、当地の文物商店などで購入された古い碑法帖拓本や新出土の珍しい資料等を見る機会も時々あった。また日本の書道用品店や輸入雑貨商の人も、中国の交易会に通われ、書画や碑帖拓本等を扱い始めた。確か30代の半ば頃に、日中国交回復記念と銘打った中国工芸品の即売会で、赤坂にあった雪江堂が、北京の文物商店「慶雲堂」の碑帖拓本等を大量に展示即売する催しが、新宿の伊勢丹百货店で開催された事があった。事前にガリ版刷りの目録を入手し、初日の開店を目指したが、途中で転び衣服が汚れ、出直して会場に出向き、多くの展示拓本を見た記憶がある。運れた為であろうか、好みの碑刻拓本はなかった。しかし、数日して気になり、再度会場を訪れた時に、北京から来られた慶雲堂の陰金城という主任の方が、きれいで裏打ちされた大小數十張りの雲峰山の全套拓本を広げて点検されていた。裏打ちされ、折り畳まれ、美事な四方帙まで添えられていた。初日に間に合わず、遅れて会場に届いた荷物であり、確認させていたのである。実に丁寧な旧い精拓の整本であった。今回の日本の展示用に、特別精選して全て裏打ちし、更に四方帙をも制作したとのことであった。欲しくなり、大型の「鄭義下碑」、「論經書詩」や題字類も広げて、全体に目を通しみると、拓紙の破損もなく、拓調の優れた

「当門石座題字」



図版①

精旧拓本であった(図版①)。だが『雲峰山全套』とすると『鄭羲上碑』などが無く、気になり雪江堂側に確認した所、陰金城氏と相談され不足分は補うとの約束を得たので、身に余るものだが、購入を決めた。しばらくして、この全套をどうにか工面して入手した。戦前から中国碑法帖書画を扱っていた文雅堂店主の江田さんに、この全套拓本を購入した件をお話ししたところ、是非とも全て写真によるアドバイスされ、上野の文化財研究所のカメラマンを紹介していただき、全てを精巧な写真に収めた。その後、碑法帖收藏家・岡村商石翁を中心とした関西の金石拓本研究会の皆さんとの交流の場で、会として「雲峰山全套拓本集」を制作出版することとなり、この時に購入した家蔵旧拓整本を底本とし、当時ご存命であり、教えを受けていた藤原楚水翁の序文と、岡村商石翁の題簽をいただき、大型図冊の「雲峰山全套拓本集」(毎日コミュニケーションズ)が昭和56年(1981)の秋に完成した。上の図版では、右から「上遊下息題字」「論経書詩」「当門石座題字」、それぞれ二字を示した。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書道芸術院 令和の群像 (2023)



見越雪枝書

「脚下照顧」



見
越
雪
枝

東京総局展が開催され、思い切って外へ出ようと決めた。銀座への道のり遠く、

還暦という節目を迎えてから一年、令和の群像の依頼があり、はて、何をお伝えしたら良いものか? と思いあぐねた。改めて、自分を見つめ直してみようと思った。

土建屋の娘に生まれて、幼稚園の時から二年間母にお習字に行きたい旨を訴え続け、小学二年生の時にやっと許可が下りた。その時、母から「やるなら死ぬまでやれ」と厳命された。今、母のいいつけを守っている途中である。

長い年月が過ぎ、師匠、お世話になつた先生方、玉松会の諸先輩方、他部門の同世代の書友が一人また一人と他界され、空虚な感が否めない。歳を重ねるということは何か切なく寂しいものだと感じるようになつた。

昨年四月に車で衝突事故に遭つてムチウチを経験したが、これが中々しぶとく後遺症が残つた。半年あまり、寝たり起きたりの生活の中で私的にも環境が変わつて、いき体が思うように動かなかつた。そのような中で、書道芸術院秋季展、

自暴自棄の時にありがたいことに私は書があつた。墨の磨れる音。筆にたつ

ぶり墨をのせた時のつやめき。紙の上を走る筆が静寂の中で流れしていく。書そのものが、無心になる時間を私に与えてくれたと思う。

これから先、書くことが好きでたまらないと思うところまで到達できるかどうか先の事はわからないが、この道を進んで来た以上、一歩ずつ前を向いて行きたい。事故後ネガティブな状況でありながら

もこの一年、自分というものを見つめ直すいい機会であったと思う。禪の言葉「脚下照顧」。慌てるることなく、しっかりと自分の足元を見つめ心をこめて生きろという戒めの言葉を胸に刻み、日々を送つてゆきたいと思っている。

書のひろば

理事長 下谷洋子

逝去された作家を対象に選出された48人の予定です。実行委員長は毎日書道会常任顧問の辻元大雲先生です。

本院から選出された方は加藤翠柳・

種谷扇舟(近詩)、恩地春洋(大字)、村野大仙(前衛)先生の4人です。

毎日書道会令和5年

第1回理事会開催

5月30日、毎日書道会の令和5年決算理事会が、如水会館にて開催されました。

議案はたくさんありましたが、その中のいくつかを報告します。

◎漢字部門の出品規定を改定する

第75回展より漢字部の「公募」「U23」「会友」の出品規定について、表現の多様性を求め、次の通り改定します。

(1)漢字部Ⅰ類を
現行「本文21字以上」から「本文15字以上」とする

(2)漢字部Ⅱ類を

現行「本文3字以上20字以下」から「本文2字以上14字以下」とする

◎第75回毎日書道展、同展記念事業の件

第75回展記念事業として、「墨魂の群像(仮称)」を開催する

これは、第50回展の「墨魂の巨匠—近代書道の人々」に続く企画で、出品作家は毎日書道展を中心に活動した物故作家で、平成31年4月30日以前にご

講演者 青山浩之(横浜国立大学教授)

清水文博(山梨大学准教授)
コーディネーター 加藤泰弘(東京学芸大学教授)
講義内容は連盟会報(年末頃発行の号)に報告される予定です。

「協会創立50周年記念
日本詩文書作家協会書展」開催

6月7日～11日、日本詩文書協会は、

会常任顧問の辻元大雲先生です。

本院から選出された方は加藤翠柳・

種谷扇舟(近詩)、恩地春洋(大字)、村野大仙(前衛)先生の4人です。

(公財)書道芸術院 定例評議員会開催

令和5年度総会および講演会

6月1日上野精養軒にて総会が開催され、令和4年度事業報告、同決算報告が行われ承認されました。

任期満了他のため役員改選が行われ、左記の通り決定しました。(○印新任)

・理事長 真神魏堂(日本書芸院)

・副理事長 高木聖雨、辻元大雲

仲川恭司

・常務理事 ○牛窪悟十、薄田東仙

加藤東陽、高木厚人

室井玄聰

○大谷洋峻、○加藤裕

○遠山白雲、○長井素軒

○山内香鶴

○高橋昭弘、○宮本博志

○山口啓山

・事務局長 辻元大雲(兼務)

総会終了後、令和5年度書写書道教育講演会が行われ、演題は「学校教育における書写書道教育の今とこれから」

がありました。

6月5日公益財団法人書道芸術院定例評議員が、東京文具会館にて開催されました。

令和4年度事業報告および収支決算の承認は原案通り可決されました。

(公財)書道芸術院 定例評議員会開催

6月5日公益財団法人書道芸術院定例評議員が、東京文具会館にて開催されました。

令和4年度事業報告および収支決算の承認は原案通り可決されました。

令和4年度事業報告および収支決算の承認は原案通り可決されました。

令和4年度事業報告および収支決算の承認は原案通り可決されました。

令和4年度事業報告および収支決算の承認は原案通り可決されました。

令和4年度事業報告および収支決算の承認は原案通り可決されました。

6月17日、理事会に引き続き、第77回書道芸術院展運営委員会(理事、監査員、事務局委員など主要人事が決定

大綱が決定、特別賞選考委員、当番審査員、事務局委員など主要人事が決定

しました。統一して第77回書道芸術院展

第75回記念全国学生書道展各部部長に

よる実行委員会が開催され、各部副部

長、委員などの組織および実行内容な

どが検討されました。書道芸術院展

第75回記念全国学生書道展各部部長に

よる実行委員会が開催され、各部副部

長、委員などの組織および実行内容な

どが検討されました。書道芸術院展

6月7日～11日、日本詩文書協会は、

会常任顧問の辻元大雲先生です。

本院から選出された方は加藤翠柳・

種谷扇舟(近詩)、恩地春洋(大字)、村

野大仙(前衛)先生の4人です。

号)に報告される予定です。

号)に報告される予定です。

号)に報告される予定です。

号)に報告される予定です。

号)に報告される予定です。

令和5年度第36回書道顕彰

2氏2団体に

(森谷部門) 山中翠谷(大字・独立書人団)

(特別賞) 東京国立博物館(藤原誠館

長)、台東区立書道博物館

(荒井伸子館長)

(俊英賞) 金子太蔵(玉燕書道会代表)

7月23日毎日表彰式にて授与され

る予定です。

第74回毎日書道展関係

・入賞審査は6月30日～7月2日、会

員賞選考会は7月5日、文部科学大臣賞選考会は7月6日にいずれも国

立新美術館にて行われます。

現代詩文書基礎基本講座 (38)

小竹石雲

◆李嶠雜詠

原帖

九 活 韶 光

①写実的臨書

九 活 韶 光

②発展的臨書

韶 光 活

②
書体、直・曲線など、一見相容れ
り、別の世界が生まれたりする。
歐陽詢の謹厳さと、自由に躍動す
る圓運動の世界の一一致が実に樂し
い。これを生かせたら現代詩文書
はいって速書きしてみた。「九」
は表記が緩んでも少し樂しくなるとの
思いを根底にお伝えしてみた。

書風で、中国から伝来したものと
伝えられているが、書風は歐陽詢
と伝えている。李嶠詩の世界最古
の写本として貴重である。その後、明治の初年に宮中
に献上されたものである。

①
写実的臨書
この帖は一見して制作意欲をかき
立てられる魅力を内蔵した、私の
好みの古典の一つだ。私の
迷いのない痛快な動きとエネルギー
シユな運筆を心がけた。

この帖は、および変化から生まれる流
動的な曲線の行、草書の部分との
融合が印象的である。

②
発展的臨書
この帖は、凛とした厳しい行書の部分と筆圧
と背勢、縦長な部分は欧陽詢風であ
る。

特徴

【李嶠雜詠】伝嵯峨天皇
唐の詩人李嶠の五言律詩120首を書
いた巻子本である。嵯峨天皇の書
と伝えられているが、書風は歐陽詢
と伝えられており、中國から伝來したものと
推定されている。李嶠詩の世界最古
の写本として貴重である。その後、明治の初年に宮中
に献上されたものである。

前衛書基礎基本講座 (14)
“奏”的篆書の造形を作品にしてみる。

千葉蒼玄



〈作例〉



左右対称な字だが、中心をずらし三角形の空間に配置する。



(1)右に寄せる



(2)上部に

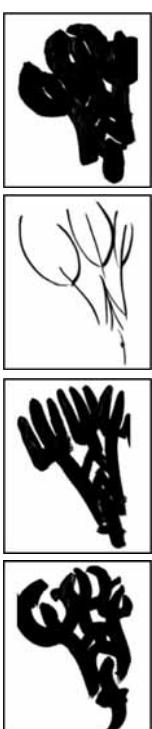


(3)下部に



(4)左に

次に(1)の造形を基礎とし、濃淡、直曲、太細の要素を取り入れる。



①太く

②細く

③直線

④曲線

〈作例〉は、④の造形で上部を太く曲線で、下部を直線で渴筆を用い白く
して仕上げた。

“奏”という意味から、使った漢字でなく“リズム”と題名を付けることも
ある。

お知らせ

今回の特別昇段級試験から、「かな部」と「かな条幅部」において、変更があります。

かな部・第二種

(旧) 臨書は歌の部分を書く
(読人、詞書等は書かなくてよい)



(新) 臨書は掲載部分を全て書く
(読人、詞書等も含めて必ず書く)

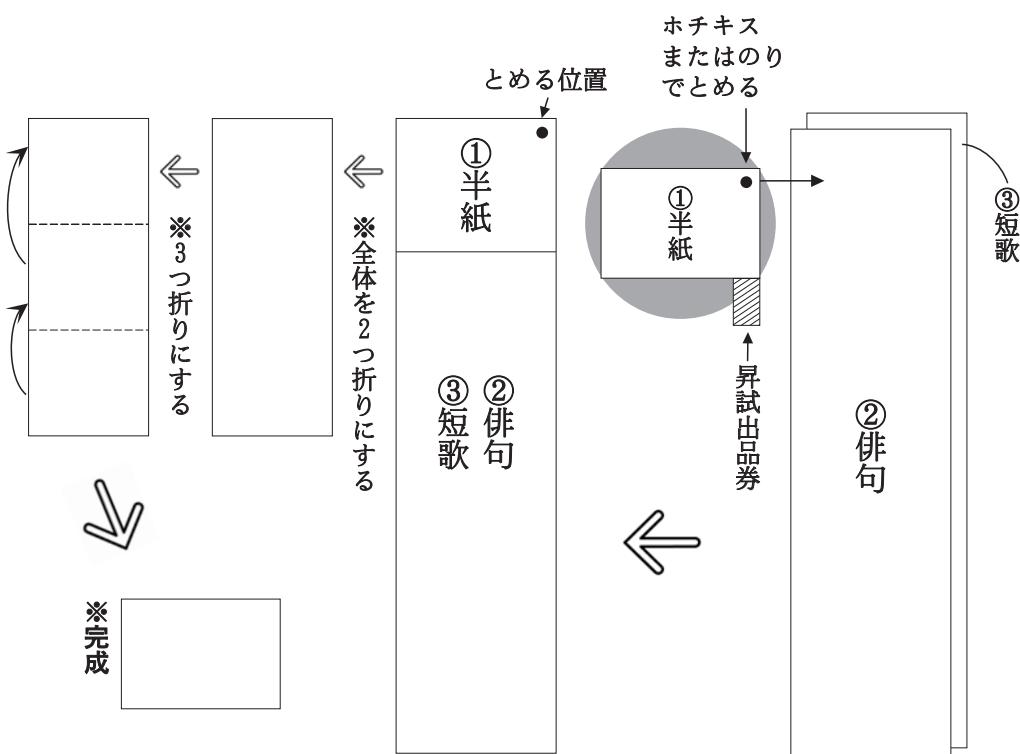
かな条幅部・第三種

(旧) 臨書は半切に古筆を拡大して書く



(新) 臨書は半紙を横にして、古筆を原寸(程度)で全てを書く
※したがって、第三種は、半切2枚と半紙1枚の計3枚を提出することになります。

◎特別昇段級試験・かな条幅第三種のまとめ方



〈注〉 完成後、使用する封筒に合わせて、さらに折ってもよい。

※半切を2枚重ねてその上に図のように半紙を置き、右上をとめる。

※お願い

書塾等で複数の作品を提出する場合は、ひとりずつ完成させた上で、それらを重ねて下さい。

十七帖

①

(注・2行目末の「以」は不鮮明のため、書いても書かなくてもよい)



(京都国立博物館蔵)

(掲載図版・75%に縮小)

<解説>

王羲之が周撫にあてた手紙を29通集めたもので、冒頭に「十七帖先書」とあることから十七帖と呼ばれている。29通それぞれに名称があり、今回の課題は「郗司馬帖」と、「逸民帖」の前半部分である。

蘭亭叙と同様にこの帖に多くの刻本があり、帖末に太宗の宸筆の「勅」字があるものを「館本」と言う。現在市販されている印刷本は、穏やかで格調高い「上野本」か、筆路明快で骨氣あふれる「三井本」のどちらに拋っている。両者を比較して臨書するのも学書の一つ方法である。(編集部)

△注△出品に際しては、上野本・三井本のどちらを臨書してもよい。

<今月の表紙>

太宗自筆の「勅」字。

※落款を必ず入れる。
（印ののみも可）

十七日先書。都司馬未去。即日得足下書爲慰。先書回眞示。復數字。吾前東。粗足作佳觀。吾爲逸民之懷久矣。足下何以

II (A・大作の部 每日晨審會・會審サクイヘイ 2×6尺・金紙も可)
B・小品の部 半切以上半切以内金紙以内可 (A・B縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可。

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

かな研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

(半紙普通判(斜紙可)・縦長に使用
別紙を裁断して貼付も可。半僕紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

B.A. 小品の部(毎日展審査会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可)
B.I. 大作の部(半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可)△

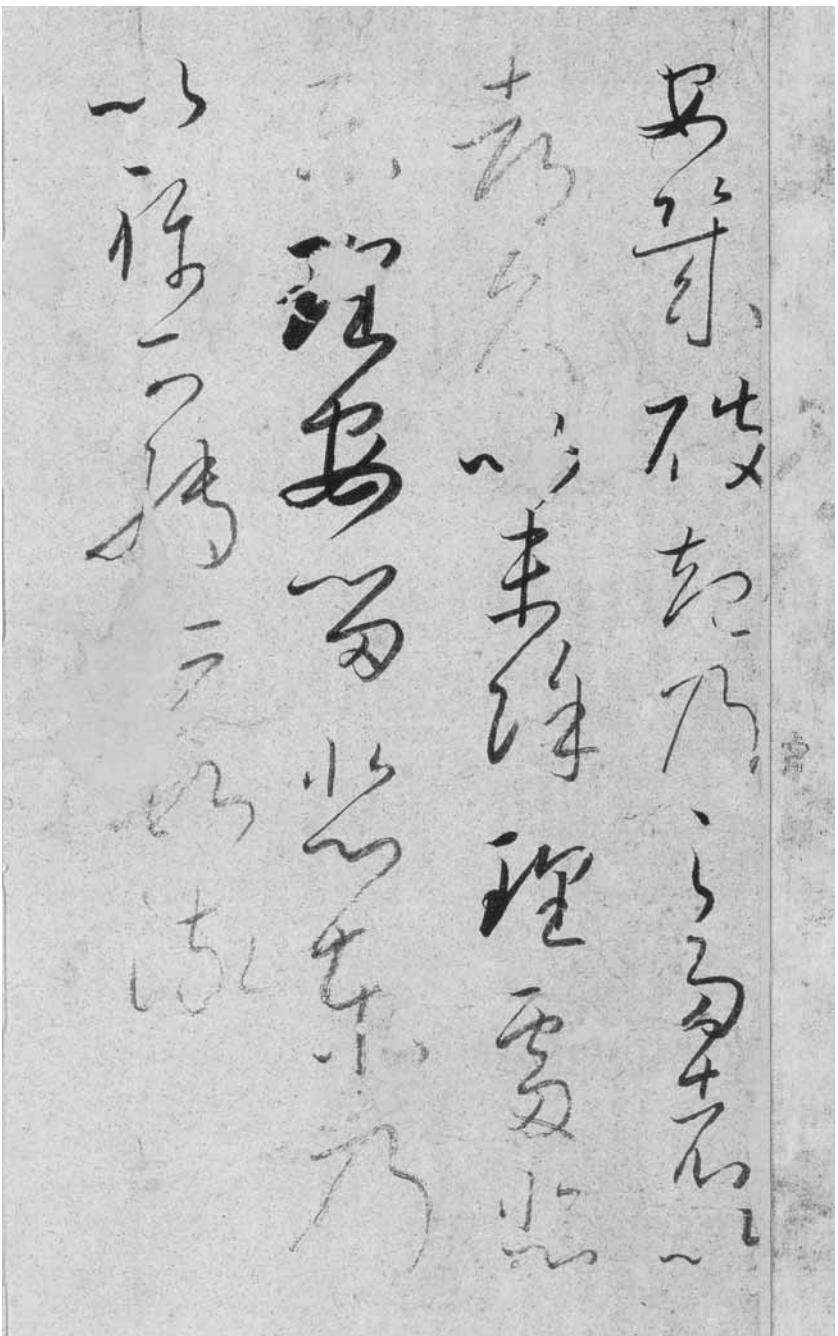
※掲載図版は原寸

解説

秋萩帖は平安中期の草がなの代表的な遺品で、名称は「安幾破起乃……」という書き出しによる。

全長850mm弱の巻子本で、第一紙が10世紀頃の書写とされ、第二紙以降は11世紀に別人がもとの本文を臨書したものである。その後に王羲之の尺牘の臨書が続くが、同一の筆とされる。

(編集部)



(東京国立博物館蔵)

仁
数
理
流
行
東
秋
萩

※落款を必ず入れる。
しくは〇〇臨(押印のみも可)

〈よみ〉 安幾破起乃之多者以
あきはざのしたばい(ろ)/づくいまよりぞひ/とりあるひとのいねがてにする
説方 部久以来餘理流
東理安留春東乃
以林可轉教流

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょ。

坂本素雪

敷華就實 (新註墨場必携)
(華を敷き実に就く)

外形の美を広く行きわたらせた
上で、内容が充実する意

先月は少し大きく動いたので、
今月は小振りに草書体でまとめて
みた。平復帖や懷素の草書千字文
(千金帖)を参考に倣書してみた
が、この臨書後の倣書は実に筆が
軽かった。

「敷」1画目は側筆にして開き、
2画目3画目は筆を立てる。画数
が少ないが筆の裏表を使う技術の
オンパレードに挑戦してみる。

「華」これも書体色々あるから、
パズルみたいに作風にあてはめな
がら試みてみる。創作は楽しみな
がら苦しみを味わうもの。
「就」偏と旁のバランスに気を付
けて運筆するように。

「實」シンプルだが品格のある字
形を保持するように。

敷華就實 よみ(華を敷き実に就く)

書体=自由



大平邑峰

雅人深致
(世説新語)

世間を超越した高尚な心がある
人の持つ、深いおもむき。



書体＝楷書

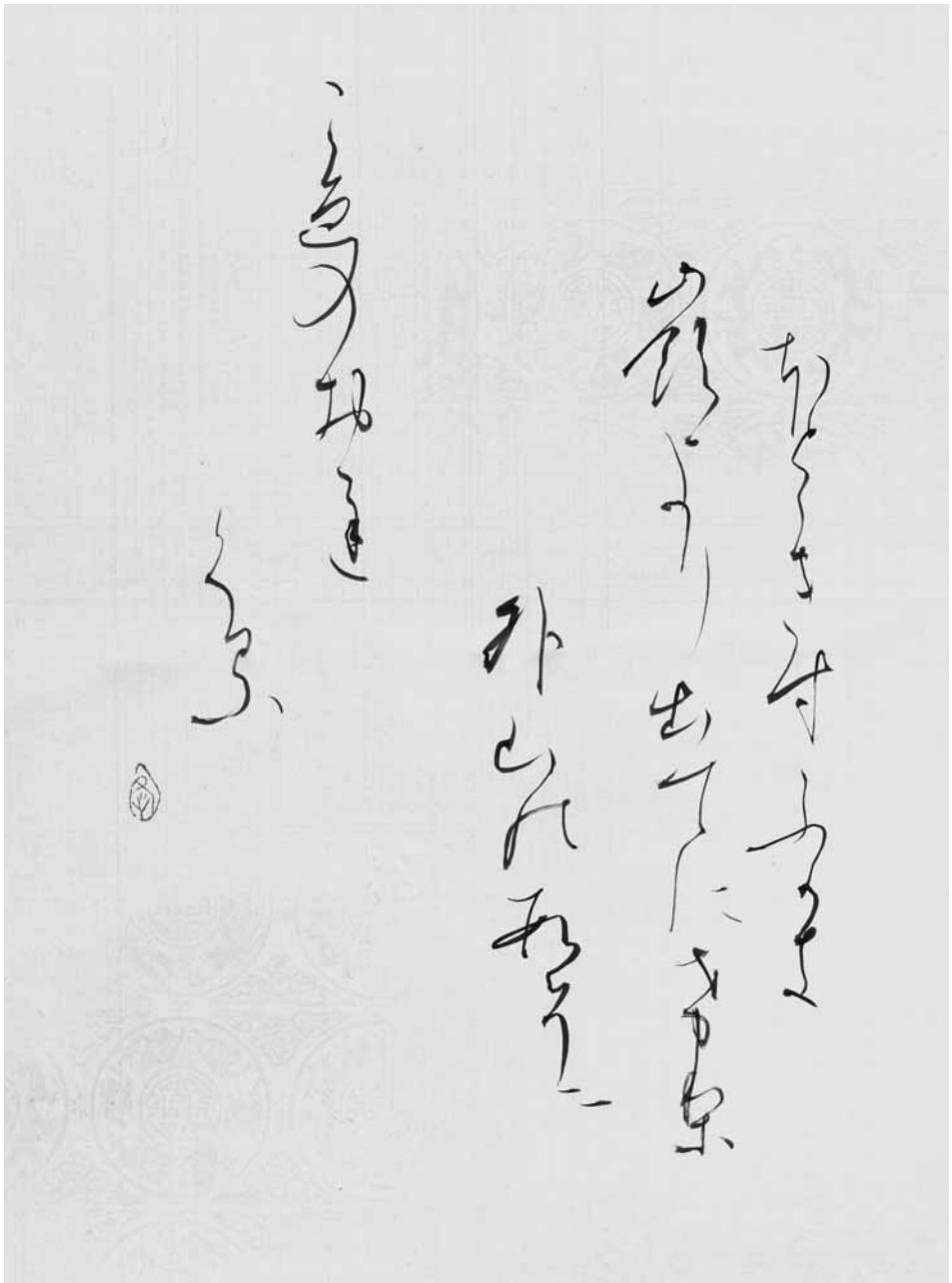
楷書は南北朝・隋の時代を経て
初唐の頃に完成期を迎えたと言わ
れています。我が国の初等教育に
おける「書写」の書風は、この初
唐の楷書がベースになっているよ
うに思います。書の経験を問わず、
多くの人にとつて美しい文字の物
差しは、この時代の楷書と言える
でしょう。

今月は、この時代の代表的古典
孔子廟堂碑をイメージしながら書
いてみました。向勢で伸びやか、
そして明るく端正なスタイルが特
徴と言えます。起筆・終筆が硬く
ならないようにし、リラックスし
た気持ちでリズムよく筆を運んで
ください。やや腰の強い小ぶりの
羊毫筆を用いました。

雅人深致 よみ(雅人深致)

習い方解説 (一)

平川峰子



郭公 深き嶺より出でにけり
とやまのすそに聲のおれぐる
(西行)

「郭公(時鳥)は深い峰から今出てきたのだな。私が歩いているこの外山の麓にその声が落ちてくるよ。」の意。

西行法師(118~1190)は平安時代末期から鎌倉時代初期の僧侶で歌人です。俗名は佐藤義清(のりきよ)で23歳の時に妻子を捨てて出家。裕福な家庭に育ち、鳥羽院の北面の武士を任せられた時の同僚に平清盛がいます。

墨継ぎは外でしました。墨継ぎの前のかすれは作品全体を立体的に見せるために重要です。

かな作品は最初に構成を考え、どういう散らし書きにするかを決めます。それから連綿を美しくするために字典調べながら変体がなをどこに使用するか熟考していきます。

よみ方 郭公(本とへき寸)深(ふ可)き(支)嶺より出でにけ(希)り(梨)

とやま(外山)の(能)す(数)そ(曾)に(一)聲(こゑ)のおち(連)く(久)る(累)

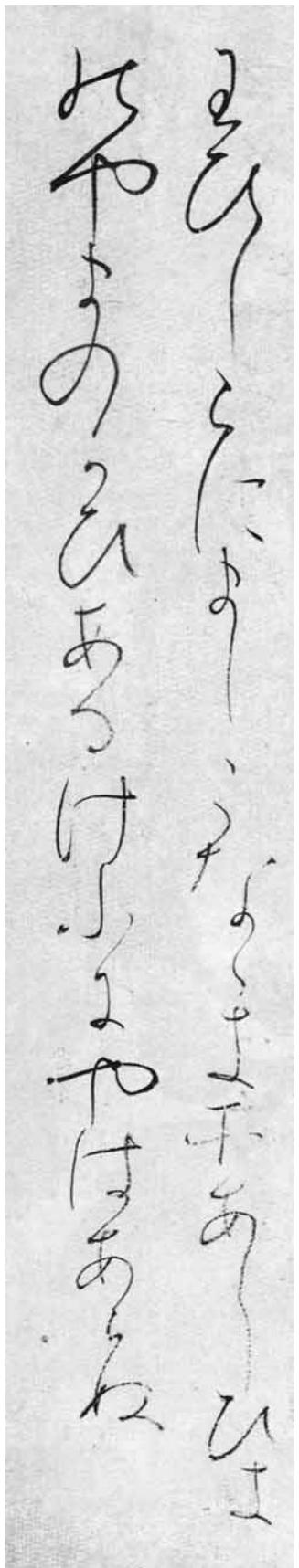
創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使
用しましょう。

かな規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 わ(王)びしらにましこ(ら)なゝき(支)そ(所)あしひき(支)／の(能)やまのか(可)ひあるけふに(尔)やはあらぬ
〈注〉「ましこ」の「こ」は「か」の誤記。臨書では「こ」と書いて下さい。

習い方解説 (一)

小島 孝予

我が宿に植ゑて育てし百草は
風の心に任すなりけり
(良實)

(良實)

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島 孝予選書



よみ方 我(王)が(可)宿に(し)植(う)ゑて育(楚た)て(寧)し(志)百草は(八)
風の心(古へ婁)に(耳)任(万加)す(寸)な(奈)り(利)け(介)り

*タテ形式に限る

創作

創作で大切なことは、いかに流麗で品のある作品になるかがけれることです。そのためには前後左右の響き合いを十分に考慮して変体がなや漢字を選び、効果的な連綿線で自然の流れを表現することが大切です。初心の方は手本の一字一字の字形と連綿線をよく確認することを心がけましょう。上級者は手本から離れ、自分なりの構成にチャレンジしてみてください。

後藤 大峰

窓前瀑布 寒林外夕陽薄
清風何處來撲松花落

窓前瀑布寒。林外夕陽薄。清風何處來。撲撲松花落。
(窓前の瀑布寒く。林外夕陽薄し。清風何の処より来たる。撲撲として松花落つ。)

書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

高田幽玄選書

習い方解説 四

高田 幽玄

孤帆遠影碧空盡惟
見長江天際流

幽玄書

書体=自由

孤帆遠影碧空盡 惟見長江天際流
(孤帆の遠影碧空に尽き 惟だ見る長江の天際に流るるを)
(李白(李太白))

今月から七言一句、14文字を2行に書きます。2行となると格段と作品としてのおもしろさが増えてきます。「孤」はやや控え目に。墨継ぎは右の行の「空」あたり。左の行の「江」でも一度。この3文字を直線で結ぶと三角形になるのが定石です。作例は単体ですが、行の流れと左右の行の書き合ひを大切に。この詩は七言絶句の後半(転句・結句)、送別の歌、李白の絶唱です。

今日は行書を選んでみました。唐代の「褚遂良」を基調に致しました。それぞれの点画には、繊細な部分があり、その辺りを考慮し書作すると良いでしょう。
まず、一文字、一文字、しっかりと文字を構築する事が大切です。「褚遂良」の行書の古典に「枯樹賦」があるので、参考にして下さい。
※タテ形式に限る

東福青篁

夏の早朝の風が爽やかだった。

足もとの草は露に濡れていた。

いま目ざめたばかりの町の家並みが

見下ろされ、その向こうに静かな

海が明るく広がっている。青篁書

今回は、氣脈（点画間や次の字へと続く気持ちのつながり・流れ）を大切にしました。一行の字数が多いため、ひらがな2字に連綿を用い、字の大小に変化をつけ引き締めるように書いてみました。

上級の方はご自分のリズムで多彩な表現を工夫して下さい。

文章は東山魁夷画伯の『日本の美を求めて』「心の鏡」の冒頭より引用しました。少年の日の記憶の中にある風景であり、いつまでも生き生きとした情景として残っています。語られています。

夏の早朝の風が爽やかだった。

足もとの草は露に濡れていた。

いま目ざめたばかりの町の家並みが

見下ろされ、その向こうに静かな

海が明るく広がっている。○○書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14×10cm)を守って下さい。

署けお見舞

申上します

来月初旬に帰省いたます

「年振り」に皆様にお会い

でありますことを樂みに

ております

せつ子

暑中お見舞い／申し上げます／来月初旬に帰省いたします／一年振りに皆様にお会い／できることを楽しみにしております

書体＝自由

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の名前(号)を (掲載手本90%に縮小)
- ◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る
- 〈注〉 今回は署名に姓は不要です。ご注意下さい。

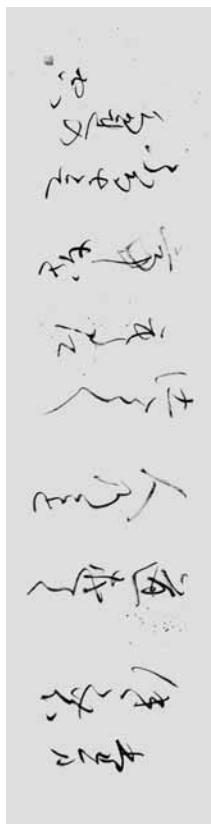
今月の

ホープ作品
各部総評

No. 745



かな部 師範 佐藤 詠子
無心に遊ぶ心境か？ いつかこんな線を描くことができたらない、
と感じさせる懐深い魅力がある。
◎かな部総評 余白美に対する理解が深くなつたと思わせる作品が多く好感が持てた。字粒の把握がボイント。藤は「ふぢ」です。（明子評）



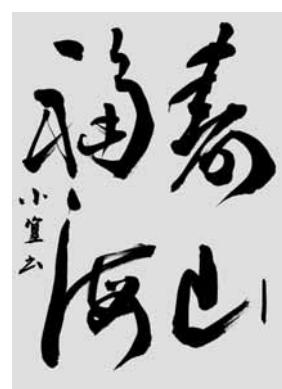
現代詩文書部 特選 坂本 芳博
見事な構成・深く沈み込んだ潤筆線・紙を捉えた粘りある渴筆線が輝きを放つ。
◎現代詩文書部総評 多種、多様な構成・見事なまでの空間処理、鍊度の高い作に敬服。（無極評）



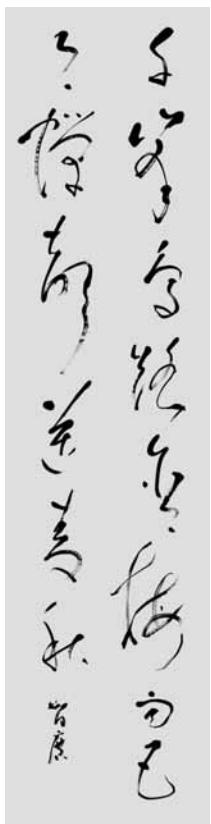
前衛書部 特選 相内 沙莉
造形のポイントの設定が上手い。
◎前衛書部総評 初心者で出品の中心の渴筆円が全体を引き締め、余白の美しさを更に際立たせた。
方は前衛書基礎基本講座を必読の上制作してみて下さい。（蓮紅評）



漢字部 師範 本柳 小笠
鍛え上げられ一切の妥協を許さない澄明で頑健な筆線が伸びやかに動き魅力的な作に仕上がる。
◎漢字部総評 一作の裏に潜む筆者の基礎力が大切。古典で積み上げた力を基に表現しないと底の浅いものになる。（石雲評）



漢字条幅部 師範 伊藤 智廣
良寛の書に習熟し、味わい豊かな細線が美しい。字形や余白の構成も巧妙で完成度が高い逸品。
◎漢字条幅部総評 上級は創意溢れる作品が見られた。日頃の学書の深さが良い作品を生む。着実な鍛錬の継続を期待する。（萬城評）



かな条幅部 四段 飯島トミ子
ボカシの美しい紙に墨色も的確、確古筆調の中字的タッチがよく映えた。渴筆の扱いが見事で惹かれる。

◎かな条幅部総評 用紙がかなには不適切なものを使っている人が多い。にじみが多過ぎると流れが出ないので一考されたい。（洋子評）

ペン字部 師範 德永 裕子
小ぶりな仕上りだが線質に力強さが加味され切れある作となつた。行間も文字の開閉で配置良く成功した。余白の取り過ぎ、詰め過ぎ上下左右を均整に布置良くまとめる事を心がけましょう。（雪枝評）

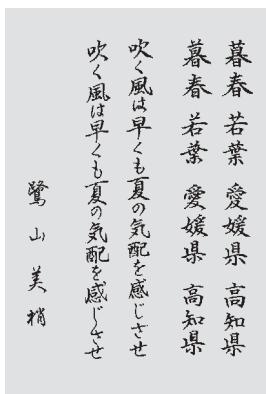
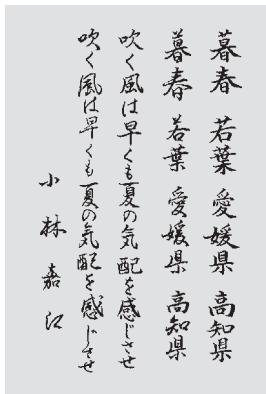
夜明けの空が水平線の近くで茜色に染まり、万物の生命の象徴としての太陽が、若々しく生まれ出る壯麗な一瞬。裕子書

実用書優秀作品

選評 西川翠嵐

◎実用書部総評

用書部總評
丁寧に書くことは大事ですが、行の流れ、漢字とかなのバランス、点画の向き、行間の余白などの調和がとれていることが大切です。
(翠嵐評)



麗澤	若美	千葉	佑朋	啓高	真氣	土	若美	天璋	高真	深大	梓苑	秀善	上里	高真	水壑	龜松	秀作	紅瑤	大雲	清月	特選
須藤	鈴木	水津	春梅	白山	井	作	木	中里	鶴淵	多胡	榎合	落合	岩上	伊澤	池田	廣戸	工藤	鷺鷺	小林	林	
萩雨	裕美	惠風	久子	綾乃	(50音圖)		木	麻衣	屋子	亞希	香華	敏苑	郁子	直子	大澤	甘雨	嘉江	美江	美江	美江	
龜松	大雲	渋生	深大	S A	東總	誠和	たか	立精	幸扇	竹原	もく	"	紅瑤	入還	千葉	紅白	白秋	紅瑤	若葉	佳月	
小高村	大野竹	太田	太田	及川	薄澤	鰐浮	須	猪股	井上	青木	藍澤	相澤	澤	横山	松永	松嶋	蛭川	西山	高木	高木	
ちえ	洋子	良華	奈子	明美	春翠	康影	白慧	峰嶺	洋俊	俊連	白瑛	敦子	敦子	敦子	蘭舟	香秋	香秋	香里	葵龍	百合子	百合子
(選外47名氏名略)	幸仙	椿翠	玉翠	夕波	八街	高真	玉翠	雪翠	八街	高真	もく	うる	うる	佐川	佐川	坂谷	坂谷	北爪	川崎	蘭鼎	
山本	山口	宮城	皆川	三浦	松尾	有希子	希子	節子	小樹	小樹	翠芳	翠芳	翠芳	西川	西川	西川	西川	西川	初江	優子	
梅香	雪翠	涼砂	涼砂	涼砂	涼砂	涼砂	涼砂	涼砂	涼砂	涼砂	象	象	象	代村	代村	代村	代村	代村	美和		

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)

琢 綾 博 美
百合子 雪 純 久 奎 山 子

選評 太田蓮紅

大胆な構成と表現力に妙
淡墨に遠近感を組合せ佳
強韌な線が軽妙に躍動
潤滑の共鳴と生命力あり
リズミカルな動きの美
爽やかで軽妙な動き魅力的
滲みの中に力強い線あり
宿墨の生み出す立体感良
回転線の軽妙さ余響く
自由な発想で楽しい表現

青紅花洋小京
湖硯樹円翠
花香彩朱鄉
渓綠鄉哲子

温雅な線で朴訥さが籠る
骨力ある直線構成で流麗
勁い線に気魄が籠る
繊細な筆致で余白が流麗
骨力ある線が冴える
飘々とした細線が光る
温雅で優しさを感じる
素朴な運筆で詩情を謳う
朴訥として心安らぐ作

雅雲喜代美
龍仙漣子
舟惠泉祥
京奎山

沈着した線に気魄が籠る
鍊度高く躍动感溢れる
強韌な線が紙面を躍る
氣字雄大強韌な細線流麗
潤渴細太のバランス見事
筆勢が漲り躍动感溢れる
墨色・味わいある線流麗
気脈一貫充実感有り
運腕大で骨力ある線籠る
潤渴太細の妙充実作で佳
骨力ある直線構成で流麗
勁い線に気魄が籠る
繊細な筆致で余白が流麗
骨力ある線が冴える
飘々とした細線が光る
温雅で優しさを感じる
素朴な運筆で詩情を謳う
朴訥として心安らぐ作

選評 佐藤無極

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 山口仙草 白石和楓

臨書(白珠)
相內沙莉
「風信帖」



相內沙莉臨

135×35cm

◆筆勢があり、線が充実し、潑刺とした臨書作品。模倣の域を越えた思い切
りの良さに惹かれた。

(萬城評)

現代詩文書 (白珠)
高原梨秀
「いつきの句」

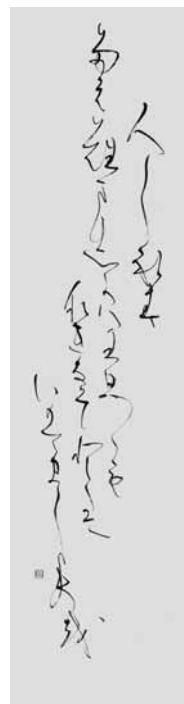


高原梨秀書

な線が魅力的で、本文は繊細な筆線に余裕もあり、爽やかで夏の涼味を感じる。
(和風評)

字の多彩、本文は
裕もあり、
味を感じ
(和楓評)

かな (潮音)
斎藤杏邑
「ひとしれず」



齊藤杏邑書

135×35cm
線の切れ味が素晴らしい。
リズムに乗った息遣いが
響き、完成度の高さが逸
格。
(洋子評)

(洋子評)

遊佐紅雅書

◆宿墨による作で上部から下部まで流動的なリズムの気力充実した作品です。線の響きが美しい。

仙草記

前衛書
(蓮紅) 遊佐紅雅「翔」

創作の部(40点)

24

八街	三浦	小樹
堺	堂光	佐藤
華祥	光耀	玉渕
利守	良章	田佳理
華祥	小泉	潤
もく	岡部	藤瓊
八街	藤瓊	春景
たか	十河	永篁
紅瑠	浜野	
原島		
春汀		
かな		
菊月		
新井		
惠子		

浅野田向子
紅瑠 松本秀皋
秀水 坂井初江
(臨晉の部)

東西 佐藤 大城
「現代詩」

〈特選候補者〉
〔創作の部〕
「漢字」

総出品点数
84点

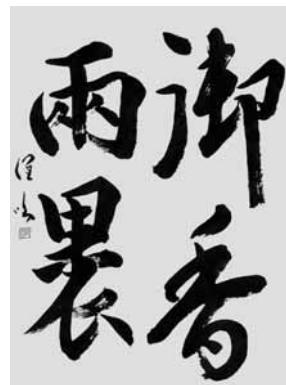
前衛 |
点 15
部(44 点)

創作の部(40点)

漢字研究部
(風信帖)

選評 稻 垣 小 燕

今月のホープ作品



小 泉 潤

漢字研究部 特選 小泉潤一
力強く安定感抜群の堂々とした作品です
原帖を注意深く観察し細部にまで意を注い

加え力強い線質で表現されています。一方で軽やかな部分もあり特徴を捉えやすいと思います。一通目との違いを意識して取り組むことが大事です。出品作には無頓着に書かれた作が多く見受けられ残念に思います。

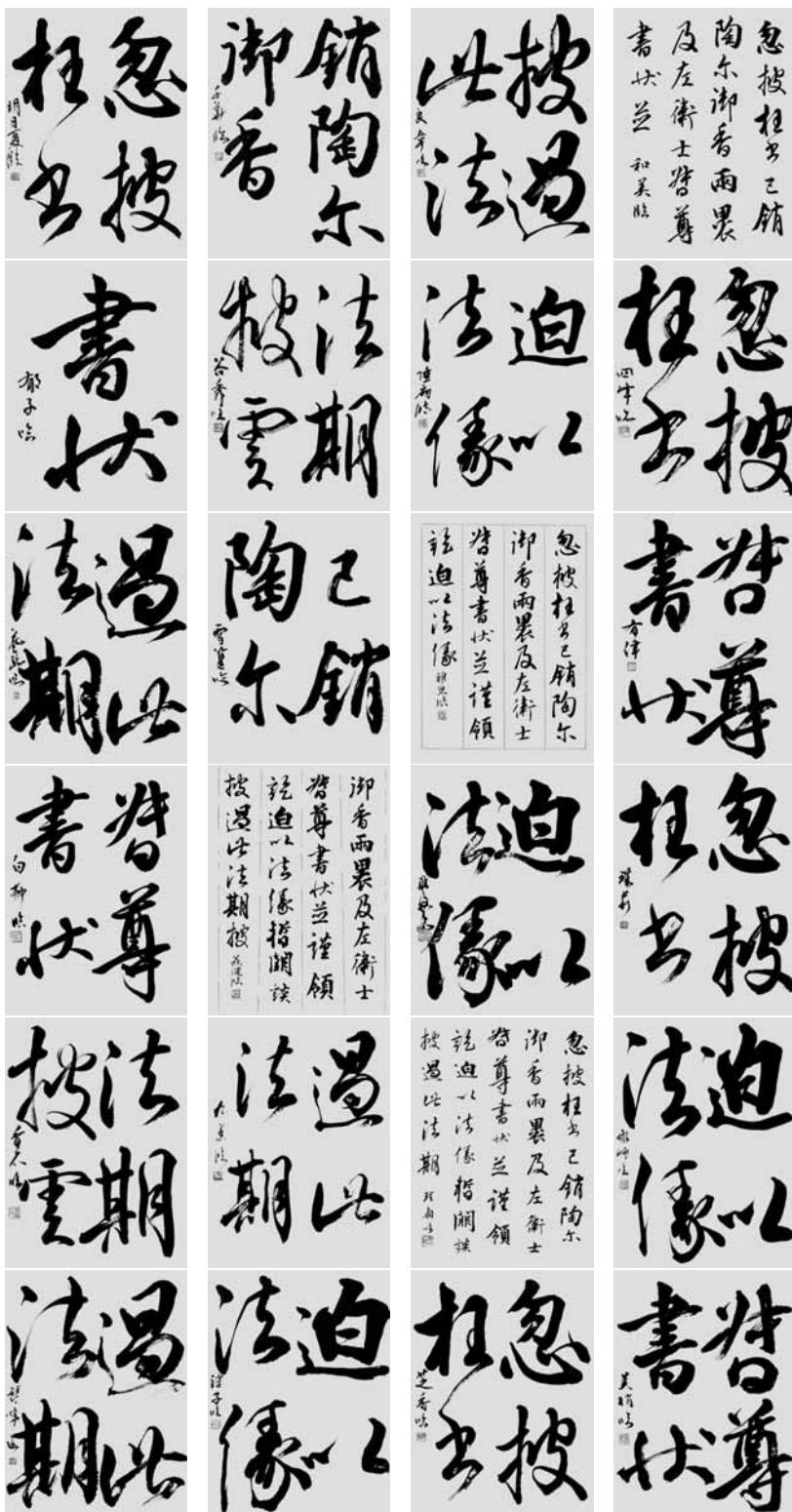
原帖を注意深く観察し細部にまで意を注いだ臨書姿勢に敬意を表します。一層鍛磨され等力を高め、より質の高い作となることを期待いたします。

◎漢字研究部總評

風信帖二通目の忽披帖は**一通目**とは趣が異なり、どっしりと安定感があります。筆圧を

加え力強い線質で表現されています。一方で軽やかな部分もあり特徴を捉えやすいと思います。一通目との違いを意識して取り組むことが大事です。出品作には無頓着に書かれた作が多く見受けられ残念に思います。

次回も空海の風信帖三通目「忽惠帖」が課題です。良い幾筆か十数点ご用意いたしました。寺町ヒカル



琴香白葵郁明日
燁石柳龍子夏

千谷雪藤右淳

芝理雅雅隆良
香扇悠泉扇章

美咏珠有四和
梢艸莉津峰美

今月のホープ作品



和麻琴

翠悠奎

亞星耶

恵恵里

美美舟

陽花心

希子衣

子子美

紅花大森う清紅
風舞雲地る月瑠秀

岩伊磯池飯飯藍
作田藤貝田高島澤
佳代悦清幸幹ミ白
子子耀子生子珠

秀

作

60書

書

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

題

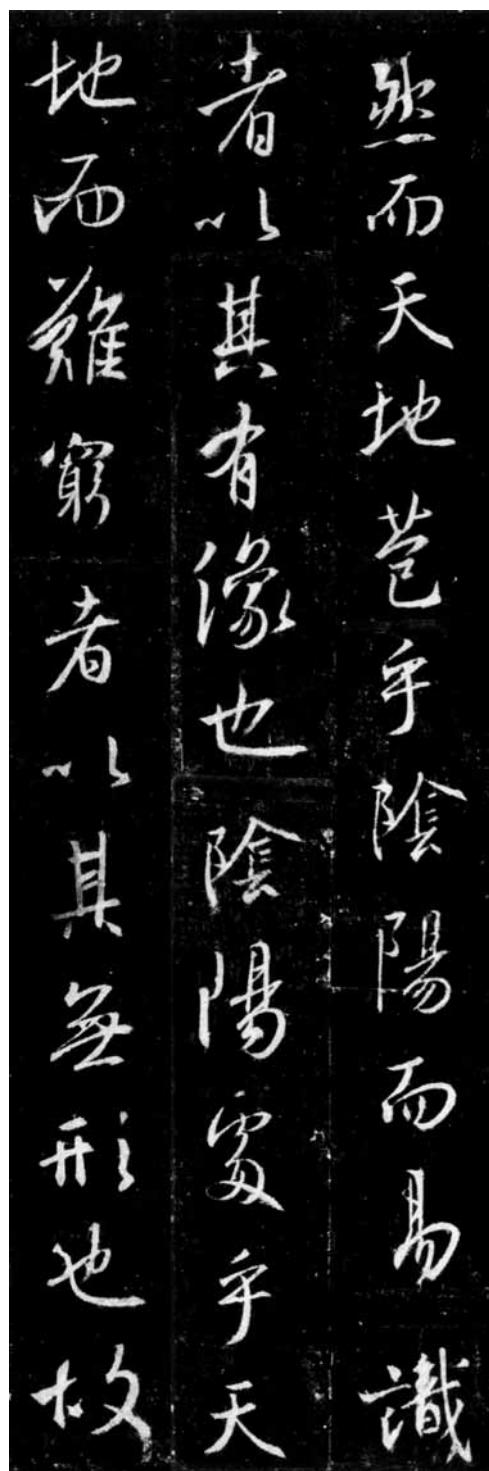
題

題

題

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。



集字聖教序（行書）

漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書



為山伊始。人知其／進。莫見其止。古人

然而天地苞乎陰陽。而易識／者。以其有像也。陰陽處乎天／地。而難窮者。以其無形也。故

也乎陰陽而易識者
人其有象也陰陽處乎天地而難窮者以
其無形也故知象顯

苞乎陰陽。而易識者。以其有象也。陰陽處乎天地而難窮者。以其無形也。故知象顯。



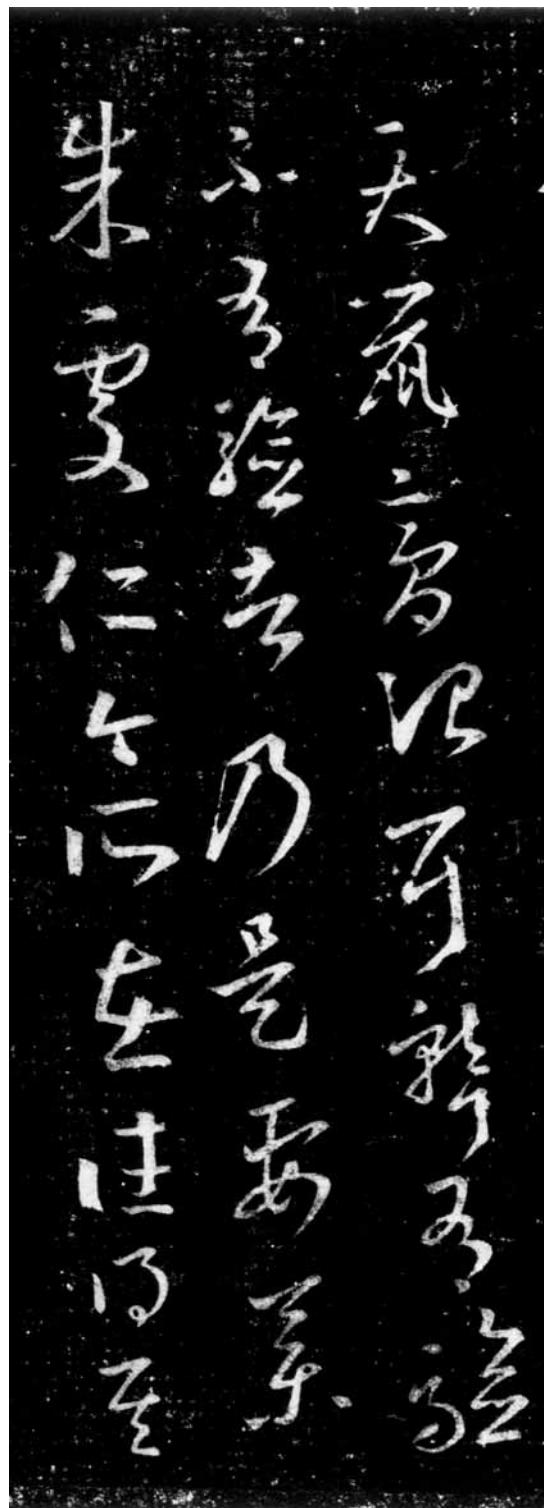
顏勤礼碑（楷書）

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書

天鼠膏治耳聾。有驗不。有驗者乃是藥。朱處仁今所在。往得其



之推。北齊給事黃門侍郎。隋東宮學士。齊書有

あきぐれればのべ那はる久をみなし那いづれ那のひと那か支徒万ままで春すぐべき春
あきぐりのはれてくもれば那みなへ那しはな那のすが那可毛も那みえ那か久くれ春する

あそぶのはうはうはうはうはう
うのうはうはうはうはうはう
あそぶのはうはうはうはうはう
うのうはうはうはうはうはう

※図版は原寸

※読み人や詞書も必ず書くこと。
ことばがき

身恒

利乎多爾須
ちりをだにすゑじとぞ曾
散起利可
さきしよりいもと可
わがぬる

身恒

利

六月のつごもりの日よめる

なつとあきと登ゆきかふそらのか
よひぢはか多たへ春すゞしきかぜやふ
くらむ

よしよまはがくつゝかくかや、

あらわすよみがわくらみ、
まづれつねに
六月のつごもりの日よめり

※掲載図版・84%に縮小

あをやぎをかたいとによりてう／ぐひすのぬふてふかさはむめの／花がさ／まがねふく
のなかやまおびに／せるほとそたにがはのおとしさや／けさ／このうたは承和の御べのきび
のく／に尔堂／みまさかやくめのさらやまさら／／にわが河多たてじよろづ代までに耳
／これは鑑眞觀の御べのみまさかの／うた

※掲載図版・75%に縮小

[2023秋季特別昇段級試験参考手本]

漢字部

第二種

◇創作・楷書

數里入雲峯

○○書

數里入雲峯

(數里雲峯に入る)

漢字部

第三種

◇創作・行書

(王維)

薄暮空潭曲
安禪毒龍制
曲安禪制
毒龍
○○書

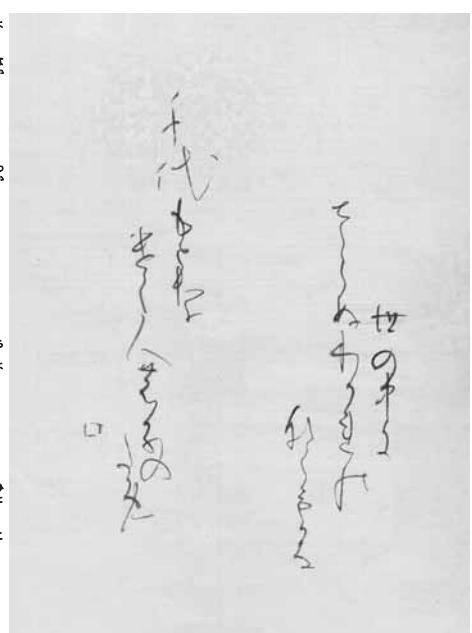
薄暮空潭曲
(薄暮空潭の曲。
安禪毒龍を制す)

(王維)

かな部

第二種

◇創作(和歌)



よみ方
世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もとなげく人の子のため
(可)な(奈)千代もとな(奈)げ(遣)く(久)人の(農)子のた(多)め(免)

世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もとなげく人の子のため
(在原業平)

- ◇秋の特別昇段級試験の課題手本(創作作品)を掲載しました。参考にして下さい。
- ◇「漢字条幅」と「かな条幅」は8月号に掲載します。

◇楷書

嵐吹きて雲は落ち時雨
 降りて日は暮れぬ若し
 燈火の漏れ来すばそれと
 分かじ野辺の里○○書

◇行書

嵐吹きて雲は落ち時雨
 降りて日は暮れぬ若し
 燈火の漏れ来すばそれと
 分かじ野辺の里○○書

◇草書

嵐吹きて雲は落ち時雨
 降りて日は暮れぬ若し
 燈火の漏れ来すばそれと
 分かじ野辺の里○○書

第一種	楷書
第二種	楷・行
第三種	楷・行・草 (計3枚)

(1枚)

嵐吹きて雲は落ち時雨
 降りて日は暮れぬ若し
 燈火の漏れ来すばそれと
 分かじ野辺の里○○書

*臨書作品は、46~51ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

*作品締め切りは9月15日(金)です。

(編集部)



おめでとうございます

祝 下谷洋子先生

—群馬県総合表彰（文化分野）—

（令和5年5月）



本院理事長の下谷洋子先生は多年にわたり、書家として群馬県はもとより中央でも活躍されております。この度群馬県より県書道協会副会長として、県の芸術文化の振興と発展に貢献された功績により、群馬県総合表彰（文化分野）を受賞されました。

・(公財)書道芸術院理事長
書道芸術院展常任総務
かな部審査会員

第三回 樹の芽会展

併催 高橋朋艸遺墨展

ご高覧頂きたくご案内申し上げます。

記

日 時 令和5年8月25日(金)～27日(日)

午前10時～午後5時まで

(最終日は4時まで)

会 場 大崎市古川市民ギャラリー緒絶の館
大崎市古川三日町1丁目1番1号

Tel 0229-21-1466

後 援 (公益財団法人) 書道芸術院

宮城野書人会

大崎市古川文化協会

大崎タイムス社

樹の芽会代表 鈴野遊山

Tel 0229-23-8609

板垣洞仙 傘寿書展 — 今昔の書作 —

ご高覧いただきたく、ご案内申し上げます

会 期 令和5年8月23日(水)～27日(日)

午前9時30分～午後5時30分

(23日午後2時開会、27日午後4時閉会)

会 場 成田市文化芸術センター 4階

なごみの米屋 スカイタウンギャラリー

後 援 毎日新聞社・(一財)毎日書道会

(公財)書道芸術院・邑門会

連絡先 ☎ 286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡2143-3

板垣 洞仙 TEL 0476-22-2675

予告

2023・8月号(748)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(9月15日締切)

古典鑑賞

④59
十七帖 ②

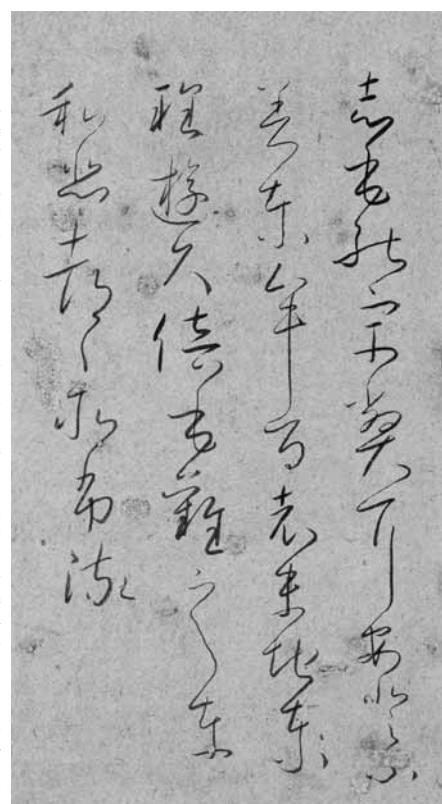
古筆鑑賞

②33
秋萩帖 ②



(京都国立博物館蔵)

(掲載図版・46.5%に縮小)



(東京国立博物館蔵)

(掲載図版・45%に縮小)

省足下別疏。具彼土山川諸/奇。楊雄蜀都。左太冲三/都。殊爲不備悉。彼故爲/多奇。益令其遊目意足

●篆刻

【八月十五日締めきり】

〈出品規定〉

①摹刻

(ア)課題による語句

(イ)原印自由

(出品の際、原印のコピー添付)

②創作

語句自由



7月号 摹刻課題

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

<特選>



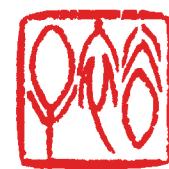
「在心爲志」

摹刻

74号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

創作



「裕子」

(摹刻)

秀作 (50音順)	遊雲特選	佳作 (50音順)	特選
秀作 (50音順)	中川研治	佳作 (50音順)	中川研治
秀作 (50音順)	大雲小映	佳作 (50音順)	大綱片岡
秀作 (50音順)	大雲小映	佳作 (50音順)	大綱片岡
秀作 (50音順)	大雲小映	佳作 (50音順)	大綱片岡

(創作)

秀作 (50音順)	粹仙特選	佳作 (50音順)	特選
秀作 (50音順)	藤井龍仙	佳作 (50音順)	藤井龍仙
秀作 (50音順)	龍仙	佳作 (50音順)	龍仙
秀作 (50音順)	龍仙	佳作 (50音順)	龍仙
秀作 (50音順)	龍仙	佳作 (50音順)	龍仙

◎篆刻部総評

摹刻、創作共、上位作品のレベルは高いものがあります。それに比し、それ以外の作品には、もう少しの感を覚えます。更に精進を。

原印観察は大変佳い。更に運刀の見事さが、この印の全て。

作者独特的雰囲気が漂う佳印。修練された持ち味、横溢している。

送 料

一か月の購読部数が

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土日・祝日は休み)

○出品方法
用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和五年六月二十五日印 刷 行
行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七四七号

101-0031
発行所 株式会社 リンクス
印 刷 小沢写真印刷株式会社
振替 東京都千代田区東神田一丁目六七
電話 (03)3862-1954
FAX (03)3862-1957
郵便番号 101-0031
ホームページ http://www.lins.co.jp/shohei/

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田一丁目六七
東神田プラザビル三階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-11954
FAX(03)3862-11957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土日・祝日は休み)